

# 岩手教区報

第340号  
 立教184年4月1日  
 天理教岩手教務支庁  
 盛岡市馬場町3-40  
 TEL 019-622-7962  
 FAX 019-623-9597



「今、身近で出来る事をコツコツと」  
 婦人会主任 加藤 早苗

今年4月19日の天理教婦人会第103回総会は、直属ごとに具体的な動きを決めて実動し、その心定めと勇み心をもって、代表が総会に参加することになっていきます。総会での婦人会長様のごあいさつを皆さんにお伝えして、実動につなげていきたいと思えます。

さて、昨年から今年にかけて、世界中が今まで経験したことのない困難な時を過ごしました。教内でも様々な行事が中止となり、婦人会創立110周年記念総会も中止となりました。「まさか！」と信じられない思いで残念でなりません。コロナに限らず、人間の力が及ばない大きな事情を見せられた時、すべてに親神様の思いがこもっていて、陽気ぐらしへと親心いっぱい導いて下さっているとわかるからこそ、今自分が出来る事をもう一度探して動いていきたいものです。

私たちの教会では、県内の信者さんは1か月に1度会えればいい方で、県外の方は1年に1度会えるか会えないかです。そこで、以前から信者さん一人ひとりを頭に浮かべ、月次祭のお下がりに特別号、チラシと「お元気ですか？」の手紙を添えて送っています。先日ある方から「荷物の中に入っていたチラシが目止

まりました。夫婦がギクシャクしていました。もう一度心がけてみます」とお返事を頂きました。チラシの一行がその方の心に響いたのです。

また、コロナ禍で参拝できない仙台の信者宅へ月一度、会長と車で通わせて頂くようになりました。それまでお会いする機会がなかった娘さんの自宅へも何回か通ううちに、娘さん家族が御両親を乗せて教会へ参拝して下さいたり、やはりお会いする事のなかった息子さんが講社祭をとめて下さるようになりました。ささやかながらも、信者さんに喜んで頂きたいという思いを、神様が受けとって下さることを実感しました。

身近で出来る事を婦人が勇んでコツコツと続けていくうちに、周囲も一緒に動き、教会も家庭も明るく生き生きしてきます。何からでも出来ることを続けていかないでいきましょう。

今年は、各支部での総会や集いを開催する予定です。委員長・後継者・布教所の後継者・教会子女の親睦を深め、これからの支部活動につなげていきたいと思えます。皆さんが生き生き動いているうちにコロナも収まり、明るい笑顔で教区婦人会総会をつとめられる日が来る事を楽しみにしております。



## 「親孝行と野球」

野村克也といえ、野球界を代表する数々の記録を打ち立て、輝かしい功績を残した人である。氏の持論は「野球の技術を磨く前に人間を磨け」であった。氏の著書の中で、巨人軍の監督として、空前絶後の9年連続日本一を達成した川上哲治さんの有名なエピソードに触れ、淡口憲治というバッターが未だ駆け出しの頃、このように評したという。「彼は親孝行だから、いい選手になるよ」と。しかし、「野球と親孝行、どこに関係があるんだと反論する人もいたが、私は今ももつともと思う」と断言する。「野球で成果を出し、親孝行すれば、親に恩返しとなる。それが動機づけとなって、真剣に野球に取り組む。そうすればプレーも変わり、ひいては運命も変わってくる。私自身、母を楽にさせたいがためにプロ

野球に入った。私の知る限り、一流と呼ばれる選手は例外なく親孝行である」と言い切る。「心が変われば運命が変わる」と言うが、人間的成長が技術的成長も促すという事である。それが分かっていた川上さんは人間教育に力を入れた。川上さんはミーティングでは野球の事は殆ど話さず、ひたすら人としての在り方を説いたという。

「選手はえてして自分の力だけで、その地位を築いたと思いがちだ。しかし人は親をはじめ他人から様々な恩恵を受けて今日がある。だからこそ感謝の心を忘れない事が大切である。感謝の心があれば自ずと世話になった人のためにも頑張らねばならないと考えるだろう。最近の監督は人間としての在り方、生き方を説かず、目先の結果しか見ず、技術を伸ばす事しか選手に求めない。川上さんを見習い、私も監督になってから人間教育に大いに力を入れたものだ」と述べている。

結びに、氏の野球観を支える人生語録を紹介する。

心が変われば態度が変わる  
 態度が変われば行動が変わる  
 行動が変われば習慣が変わる  
 習慣が変われば人格が変わる  
 人格が変われば運命が変わる  
 運命が変われば人生が変わる

氏は、人生観の確立なくしてろくな仕事はできないと言いつつ切っている。

岩手教区  
 全教一斉ひのきしんデー

献血日 4月29日(木)

会場 岩手教務支庁

400ml献血のみ

受付時間 9:30~11:30

### 行事予定

【4月分】

- 1日 少年会例会(12時)
- 2日 主事会(9時)
- 10日 役員会議(10時)
- 10日 青年会支部リーダーカンファレンス(18時)
- 11日 学生担当委員会例会 on line(19時)
- 11日 教区報編集会議(15時)
- 13日 教区小史編集委員会(10時~14時)
- 18日 婦人会例会(10時30分)
- 18日 災害隊例会(18時)
- 29日 女子青年例会(10時)
- 29日 全教一斉ひのきしんデー 教区献血ひのきしん(9時30分)

式典のふりかえり、高野委員長の挨拶などがあり、最後に新年度の歩みを進める上で、道の学生としてコロナ禍終息への祈りを捧げ、それぞれの立場でしっかりと勤めていくことを誓い合



「春の学生おぢばがえり」報告



学生担当委員会

3月28日、教区学生担当委員会では今年の春の学生おぢばがえりとして、本部配信の「道の学生オンラインの集い」に続き、団体アワーを開催、学生8人と委員及びスタッフ7人が参加した。これは県内外を問わず、岩手教区につながる学生がスマートフォンやパソコンなどを通してつながり、おぢばに思いを馳せると同時に、教えに沿ってこれからの歩みを進めていこうというもの。

団体アワーは、加藤教区長のお話や

「東日本大震災慰霊祭」  
執行さる

東日本大震災津波発生より10年を迎えた。岩手教区では3月1日、宮古市田老の三王園地に於いて、東日本大震災慰霊祭を執り行った。

会場となった三王園地は、甚大な被害を受けた田老地区にある震災後整備された公園。三陸有数の景勝地三王岩を眼下に見下ろし、園内には「海嘯鎮魂の詩」碑もあり、多くの人が訪れる。

午前9時より、前日宮古入りしたスタ



ツフが会場の設営に当たった。暖かい好天のもと、県内各地より教友が続々と参集。11時30分、雅楽の音が三陸海岸に響き行く中、祭員が入場。先ず加藤昌弘教区長が厳かに祭文を奏上し、続いて参列者が玉串を奉献。よろづよ八首奉唱の後、挨拶に立った中田俊次前教区長は、震災の発生から今日にいたるまでの動きをふり返り、一層のたすけ合いの大切さを述べられた。

慰霊祭終了後、おさがりのアンパンと鈴木セツ子婦人会元主任の手作りの饅頭などが記念品として配られ、参加者はそれぞれ帰路についた。

なお、参加者は94人(含、祭員18人)。



献血推進委員会

「献血推進研修会」開催さる

オンラインを通して遠くの仲間とつながり、時を同じくして思いを一つにする集いは、これまでとは一味も二味も違う形であったが、現状では有効な手段であり、今後も様々な機会を模索しながら、お道の素晴らしさを伝えていきたいと感じた団体アワーでした。

教区献血推進委員会(門間道明委員長)は、去る3月2日、教務支庁において献血推進研修会を開催、21人が参加した。加藤教区長の挨拶の後、講師の赤十字血液センター献血推進係長米田佑介氏が登壇。米田氏は先ず本教の献血活動への感謝を述べられ、続いてパワーポイントとDVD映像をもとに献血の予備知識や必要性などをわかり易く話された。献血された血液は輸血や血液製剤などの薬に用いられます。献血はおたすけ活動の一つです。特に若者層献血の勧めを強調したいと思えます。

《東日本大震災慰霊祭々々文》

これの所より先の東日本大震災によりゆくりなくも尊い命を失われた幾多の人々の霊の御前を遙かに拝して 天理教岩手教区長加藤昌弘慎んで申し上げます。平成二十三年三月十一日 この日も霊様方には いつもおの様に互いに親しみ睦み合い励まし合いながら時を重ねておられたことと存じます。又この天理の道を信奉する人達も陽気ぐらし世界建設の御用にお励み下さるなど夫々のつとめ立場において 老も若きも勤しみながらやがて巡り来る花咲き風薫る季節の訪れを待ち望んでおられた矢先 突然発生した地震と津波により町はたちまちにして見る影もなく打ち崩された瓦礫の山と化した人々の尊き命さえもうばい去って行ったのであります。その犠牲となられた人の数は東北地方を中心に十二の都道県で二万二千余名。岩手県だけでも死者四千六百七十三名 安否行方不明の人々一千六百六十九名の五千八百余名にも及び愛してやまぬ家族親族 又かけがえなき友人知人との別れとなりました事は 思えば誠に悼ましく口惜しい限りでございます。

この大惨事に国内はもとより世界の人々の互助と博愛の精神は計り知れぬ程に強くそして広く すぐさま延べられた善意の手による国県を挙げての救援活動が展

開され 徐々に復興を遂げることが出来ました。教区内におきましても 全国より駆け付けられた災害救援ひのきしん隊をはじめ多くの皆様による懸命の活動と ご本部より賜りました「復興の種」のお蔭により我が岩手教区管内の被災教会すべてが昨年をもって神殿の復興が出来ましたことは誠にありがたい限りでございます。

あの災禍の日より早十年を迎えようとする今 岩手教区では事謀り定めて 今日この日に管内より参り集いましたようばく信者と相共に「東日本大震災慰霊祭」を執り行い こと改めて霊様方の御生前の数々の御功績を讃え 御遺徳に御礼申し上げたいと存じます。

私共は未曾有と言われるあの地震災に遭遇した体験と教訓を風化させる事なくしっかりと次代へ伝えながら ここに改めて災害救援活動の更なる強化充実を期したすけあいの輪を広げる努力を重ねて参る所存でございます。

かく申し上げる心のまま 御前に心尽しの種々の物をお供えし 伏し拝む私共の真実の状を何卒御心安くお受け取り下さいます。未だ不自由な生活を余儀なくされておられる方々が揃って一日も早く元の平穏な日々を取り戻し 心勇んで力強く前に向け歩むことが出来ませうお見守りお導きの程を一同と共に謹んでお願い申し上げます。